

環境経営レポート 2023 年度版 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

発行：2024（令和 6）年 4 月 15 日

修正：2024（令和 6）年 5 月 1 日

株式会社 HDK

目 次

1. 組織の概要
2. 対象範囲
3. 環境経営方針
4. 環境経営目標
5. 環境経営計画
6. 環境目標の実績
7. 環境活動計画の取組結果とその評価
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び
評価結果並びに違反、訴訟等の有無
次年度の取り巻く環境の変化
9. 代表者による全体評価と見直し

1. 組織の概要

(1) 事業所の名称

株式会社 HDK

(2) 代表者

代表取締役 齋藤昌弘

(3) 所在地

本社

〒192-0005 東京都八王子市宮下町1-7-7 番地 8

電話 042-691-5621

FAX 042-691-5643

(4) 環境管理責任者及び担当者

工場長 宝田次郎

(5) 事業内容

1) 顧客設計の通信機器・半導体製造設備の組立及び配線

2) 一般労働者派遣事業（許可番号 派13-306942）

(6) 事業規模

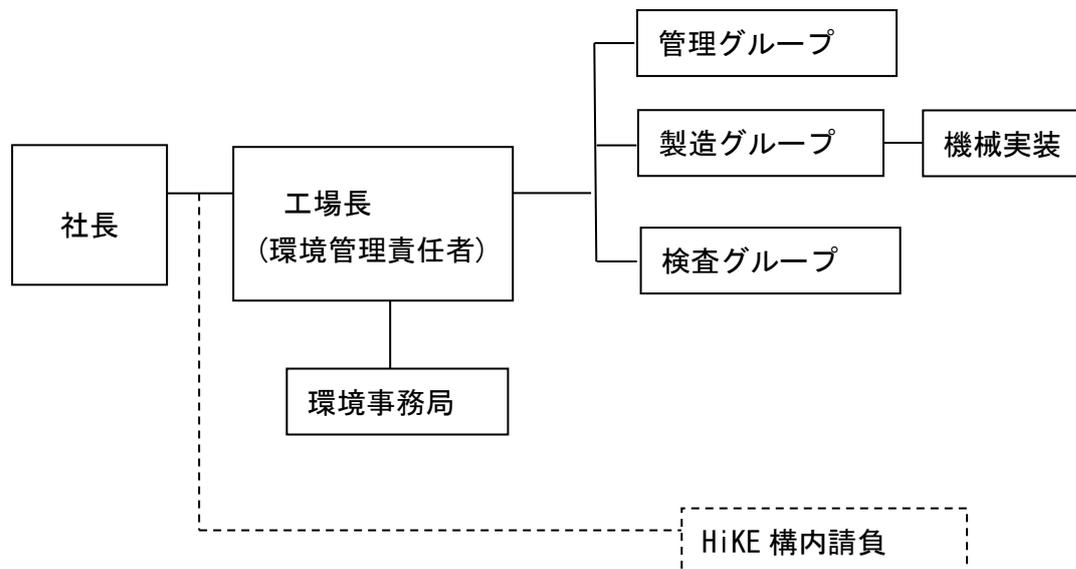
設立 平成元年7月

資本金 1000万円

従業員数 39名（パートタイマー含む）

延べ床面積 990平方メートル

(7) 環境組織図



※2023年4月より 機械実装グループが製造グループに再編入
 適用除外→HiKEの東京事業所の構内請負でありHiKEの
 「EMS (ISO14001) 下で適用除外」

適用除外

	役割・責任・権限
代表者	環境方針の策定 環境管理責任者の任命 環境経営システムの実施・管理に必要な資源の準備 環境経営システムの定期的評価と見直し 環境活動レポートの発行
環境管理責任者	環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を作成・更新 環境関連法規等の遵守状況の評価 環境目標・環境活動計画書を作成及び運用状況の評価 環境活動レポートの作成 是正処置・予防処置の指示 外部からの要望、苦情の受付
グループリーダー	製造：有鉛半田使用量管理 管理：IPA使用量管理 機械実装：電力削減 品質保証：監査
全従業員	環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 決められた事を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

2. 対象範囲

(1) 登録範囲

株式会社HDKの「顧客設計の通信機器・半導体製造設備の組立及び配線」の事業活動に適用する。

(2) レポートの対象期間

2023年4月～2024年3月

(3) 発行日

2024年 4月 15日

(4) 修正日

2024年 5月 1日

3. 環境経営方針

環境活動基本理念

株式会社HDKは、社会の一員であることを深く認識して、公平かつ透明な企業行動に徹するとともに、企業活動を通じて、地球的な環境の保全と地域的生活環境の向上に努めます。

環境活動行動指針

当社は基本理念のもとに、通信機器の組立及び配線業務の企業活動を通じ、以下に掲げる指針に基づく環境管理活動を推進いたします。

1. 当社は、適切な環境マネジメントシステムを構築し、その継続的改善に努めます。
2. 環境関連法令、条例等を遵守します。
3. 当社の環境負荷に関わる次の項目を目標に設定し、毎年定期的に見直します。
 - 1) 地球温暖化防止のため、省エネルギー化を推進します。
 - ・生活用水の節水に努め、使用量を把握すると共に、節水型設備への変更を推進致します。
 - 2) 廃棄物の分別収集を行い、資源のリサイクルを推進します。
 - 3) 製造工程で使用される化学物質管理を徹底し、環境の保全を推進します。
 - ・当社が生産・販売・提供する製品における環境への配慮を行います。
 - 4) 当社で購入する事務用品等のグリーン購入を推進します。
4. 当社の従業員に環境教育を通じ本方針を周知します。

改訂日 令和3年4月1日

株式会社 HDK

代表取締役 齋藤昌弘

4. 環境経営目標

No.	項目	基準値	中期目標	2023 年度目標	
1	エネルギー使用量の削減	電力使用量の削減	236,463 kWh	2027 年度 2017 年度比 10%削減	2017 年度比 10%削減
		LPG 使用量の削減	59 kg	2027 年度 2017 年度比 50%削減	2017 年度比 50%削減
		車両燃料使用量の削減	833L 1,744L	2027 年度 2022 年度比 110%以下	ガソリン 2022 年度比 110%下 軽油 2022 年度比 110%以下
2	二酸化炭素排出量の削減	134 kg-CO2	2027 年度 2017 年度値比 10%削減	2017 年度比 10%削減	
3	廃棄物排出量の削減	一般	2027 年度	2022 年度比 110%以下	
		530Kg	2022 年度比 110%以下		
		産業	2027 年度	2022 年度比 3%削減	
	30 m3	2022 年度比 3%削減	リサイクル調査継続		
4	水使用量の削減	476 m3	2027 年度 2017 年度比 20%削減	2017 年度比 20%削減	
5	化学物質使用量の削減		適正使用量の管理	適正使用量の管理	
6	環境に配慮した製品の提供		鉛(半田)の適正使用	鉛(半田)の適正使用	
7	紙使用量の削減	55,000 枚	2027 年度 2022 年度比 3%削減	2022 年度比 3%削減 工数原単位	
8	グリーン購入率の向上		グリーン購入可能品への切替	グリーン購入可能品への切替	

注記：電力の CO2 排出係数は、
2017 年度の東京電力エナジーパートナー値 0.462 kg-CO2/kWh を使用

5. 環境経営計画

		活動計画	担当	日程	
エネルギー	電力使用量の削減	①不在場所の消灯と休憩時間の消灯実施。	機械実装	随時	
		②室内温度を夏期26℃、冬期24℃目安に設定。	同上	随時	
		③パソコンOA機器等を省エネモードに切り替える。	同上	随時	
		④室外機の遮熱	管理責任者	夏季	
	LPG使用量の削減	①管理を適切に実施し、着放しにしない。	管理 Gr リーダー	随時	
		②お湯を沸かす量を配慮する。	同上	随時	
	車両燃料使用量の削減	①アイドリングストップを徹底する。	同上	随時	
		②急発進、急停止をしない。	同上	随時	
		③適正な車両を選択する。	同上	随時	
		④定期便の1便化の徹底	同上	随時	
	二酸化炭素	二酸化炭素排出量の削減	①電力の使用量、LPG使用量、車両燃料の使用量を削減することにより実現する。	管理 Gr リーダー	随時
	廃棄物	廃棄物排出量の削減	①ダンボールなど繰り返し梱包時に再利用する。リサイクル業者への引き渡し	製造 Gr リーダー	随時
②新聞紙、緩衝材など繰り返し梱包時に再利用する。			同上	随時	
③ビニール袋を繰り返し再利用する。			同上	随時	
④プラスチック類のリサイクル・リユースの方法を更に検討する。			品管 Gr リーダー	随時	
水	水使用量の削減	①流し放しにしない。	同上	随時	
		②お湯を沸かす量を配慮する	管理 Gr リーダー		
化学物質	化学物質使用量の管理	①適正な使用量を厳守する。	同上	随時	
		②こまめに容器のフタを締め、揮発を少なくする。	同上	随時	
紙	紙使用量の削減	①裏紙をコピー用紙やメモ用紙として再利用する。	品管 Gr リーダー	随時	
		②ペーパーレスの推進（パソコンで情報を共有）。	同上	随時	
グリーン購入	グリーン購入量の向上	①購入時に調べて、「グリーン商品」を購入する。	発注者	随時	

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

電力使用量の削減

不在場所の消灯と休憩時間の消灯実施。

→実施確認

高温発熱機器周辺を除き、室内温度を夏期 26℃、冬期 24℃目安に設定。

→夏期発熱機器周辺以外実施

パソコン OA 機器等を省エネモードに切り替える。

→切替済み。引き続き実施

電力ピークの分散

機器立ち上げ時間をずらして電力使用ピークの分散を計る

→社長から全体へ再度指示。デマンド監視機器の警報機能を利用して冬季朝の発報時に電気ストーブ、加湿器の電源を一時的に OFF。

ヒーター搭載機器の立ち上げ時間をタイマー機能活用と手動電源投入時間調整などで可能な限りずらした。

平時より朝に電源投入していたポイントソルダーを使用時電源 ON、使用后 OFF に変更。

LPG 使用量の削減

昨年社長指示により引き続き湯沸かを電気ポットに変更

→実施中。LPG は湯沸かし器での食器洗浄、冬季拭き掃除用途に限られた。

車両燃料使用量削減

車両入替 NV200 バネット（ガソリン車）による消費燃料の低減効果。

アイドリングストップを徹底する急発進、急停止をしない。適正な車両を選択する。

→運転者実施中

定期便の 1 便化の徹底

→顧客要請以外の 2 便実績無し。

水使用量の削減

流し放しにしない。お湯を沸かす量を配慮する。

→実施中

産業廃棄物排出量の削減

ダンボールなど繰り返し梱包時に再利用する。リサイクル業者への引き渡し。

→発送時に再利用中。新聞紙、茶紙、段ボール余剰分はリサイクル業者へ引き渡し。

ビニール袋を繰り返し再利用する。

→社内でリユース実施中

プラスチック類のリサイクル・リユースの方法を更に検討する。緩衝材など繰り返し梱包時に再利用する。

→発泡スチロールトレイを通い箱としてリユース中。エアークッションも顧客から返送してもらい、数回のリユース中

化学物質使用量の管理

適正な使用量を厳守する。こまめに容器のフタを締め、揮発を少なくする。

→実施中

基板洗浄廃液を治具及びフィルターの1次洗浄液として繰り返し再利用

→実施中だが、治具増加に伴い洗浄頻度増加。浸け置き洗浄容器を番重の積み重ねからパッキン付き蓋つき容器に変更し、揮発量低減を図った。



紙使用量の削減

裏紙をコピー用紙やメモ用紙として再使用する。

→適宜実施中 FAXで勝手に送信してくる迷惑広告類増加中
ペーパーレスの推進（パソコンで情報を共有）。

→適宜可能な範囲で実施中

グリーン購入

購入時に調べて、「グリーン商品」を購入する。→適宜実施中

エアコン室外機の日除け

夏季の酷暑時期に屋根の上に設置されているエアコン室外機に日除けを5月より継続設置。



2023年秋季、劣化の為撤去した。2024年度は新しい物を設置予定。

PSA付属コンプレッサーの廃熱利用

昨年に続き、屋外へ排出しているPSA付属コンプレッサー廃熱ダクトの排気の一部を冬季室内へ取り込み。屋外への排気量が減少した分、外からの冷気の流入が僅かではあるが減少。



外気流入対策

正面入り口観音扉のパッキンを新しい物に交換し、機器廃熱のための排気による外気流入の低減を図った。



7-1. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果

二酸化炭素総排出量：83t-CO2

廃棄物量（一般）：630kg

廃棄物量（産業）：29.5m3（廃プラ）+13,740kg（その他）

上水使用量：305m3（生活用途のみ）

		基準値	2023年4月～2024年3月目標	2023年4月～2024年3月実績	結果
エネルギー	電力使用量	236,463 kWh	基準値比10%削減	165,251 kWh	○
				69.9%	
	LPG使用量	59 Kg	基準値比50%削減	24 kg	○
				41.2%	
車両燃料使用量	833 L	ガソリン基準値比110%以下	831.41 L	○	
			99.8%		
	1,744 L	軽油基準値比110%以下	1,682 L	○	
			96.4%		
二酸化炭素	二酸化炭素排出量	121 t-CO2	基準値比10%削減	83 t-CO2	○
				68.6%	
廃棄物	廃棄物排出量	可燃 530 Kg	基準値比110%以下	630 Kg	×
				118.9%	
	産業廃棄物(プラ) 30 m3	基準値比3%削減	29.5 m3	×	
			98.3%		
水	水使用量	476 m3	基準値比20%削減	305 m3	○
				64.1%	
化学物質	IPA		適正使用量の厳守	減少	○
	トルエン		適正使用量の厳守	基準年並み	○
環境配慮製品	鉛		適正使用量の厳守	若干増加	○
紙	紙使用量	55,000 枚	基準値比3%削減	55,000 枚	×
				100%	
購入	グリーン購入量	調査済品はリピート購入		調査済品はリピート購入	○

工数原単位での結果

		基準値	2023年4月～2024年3月目標	2023年4月～2024年3月実績	結果
エネルギー	電力使用量	329.829 kWh/100H	基準値比 10%削減 工数原単位	239.593kwh/100H	
				工数原単位 73%	○
	LPG 使用量	0.083 Kg/100H	基準値比 50%削減 工数原単位	0.035kg/100H	
				工数原単位 43%	○
	車両燃料使用量	1.270 L/100H	ガソリン基準値比 110%以下 工数原単位	1.205L/100HL	
				工数原単位 95%	○
	2.659 L/100H	軽油基準値比 110%以下	2.438L/100H		
			工数原単位 92%	○	
二酸化炭素	二酸化炭素排出量	155.9884 kg-CO2/100H	基準値比 10%削減 工数原単位	119.8851 kg-CO2/100H	
				工数原単位 71%	○
廃棄物	廃棄物排出量	一般廃棄物 0.808Kg/100H	基準値比 110%以下	0.91Kg/100H	
				工数原単位 113%	×
		産業廃棄物(ﾌﾟﾗ) 0.046m3/100H	基準値比 3%削減 工数原単位	0.043m3/100H	
				工数原単位 94%	○
水	水使用量	0.664m3/100H	基準値比 20%削減 工数原単位	0.442m3/100H	
				工数原単位 67%	○
紙	紙使用量	83.835 枚/100H	基準値比 3%削減 工数原単位	79.743 枚/100H	
				工数原単位 95%	○

※ 2023年度総工数は68,972H

2023年度以下の設備の更新などを行った。

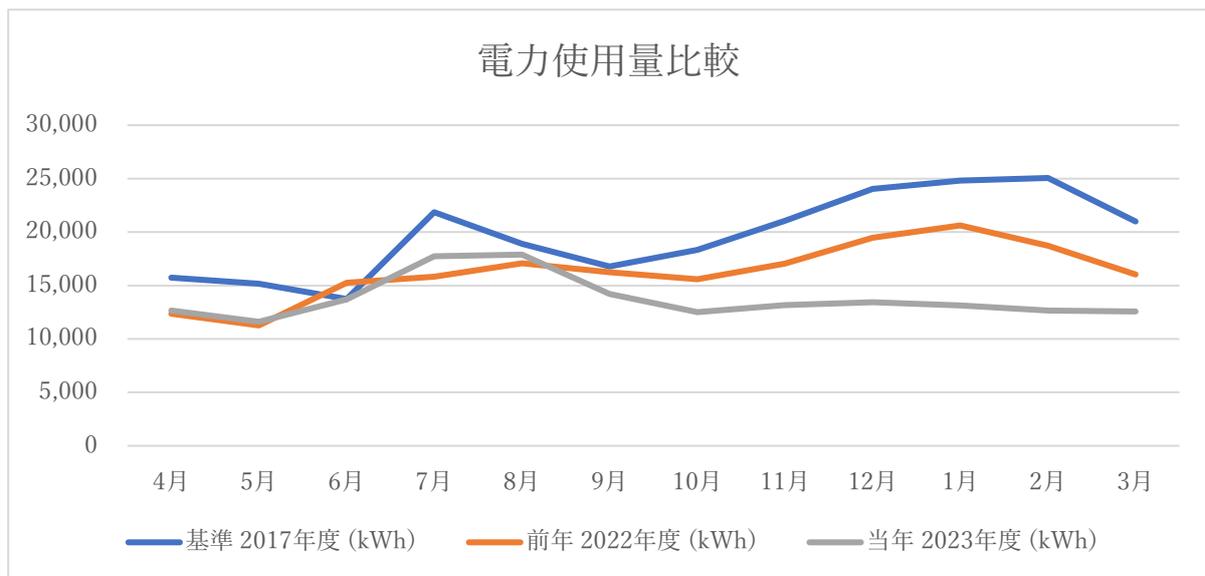
6月老朽化の目立つ機械実装機2台を1台に集約して更新。同時にクリーム半田印刷機も更新するとともに基板クリーナーの新規導入を行った。

実装機が新しくなり、高速化による稼働時間の短縮が期待され、同期して稼働する大きな熱源であるリフロー炉稼働時間の短縮は電力消費量を下げる効果が期待された。

導入直後の7月8月は、酷暑によるエアコン稼働の影響によって前年同月より消費電力量は多かったが9月以降は減少に転じた。但し受注量減少による稼働時間短縮も大きく影響していると見られ、暖冬影響も重なり正確な評価は困難であった。今後複数年のデータによる評価となる。

電力使用量は165,251kWhで昨年度より30,266kW削減でき、基準の2017年度基準値に対して69.9%、工数原単位で73%となり目標達成。

夏季の倉庫内の湿度について低下要請が顧客よりあるため、2023年度も倉庫のエアコンを数か月24H入れっ放しにした。昨年度はそれでも顧客要請値未達成であったが、昨年秋に外気導入口を塞いだため今年度は顧客要請値を達成した。これに伴う電力消費量は減少したと思われる。



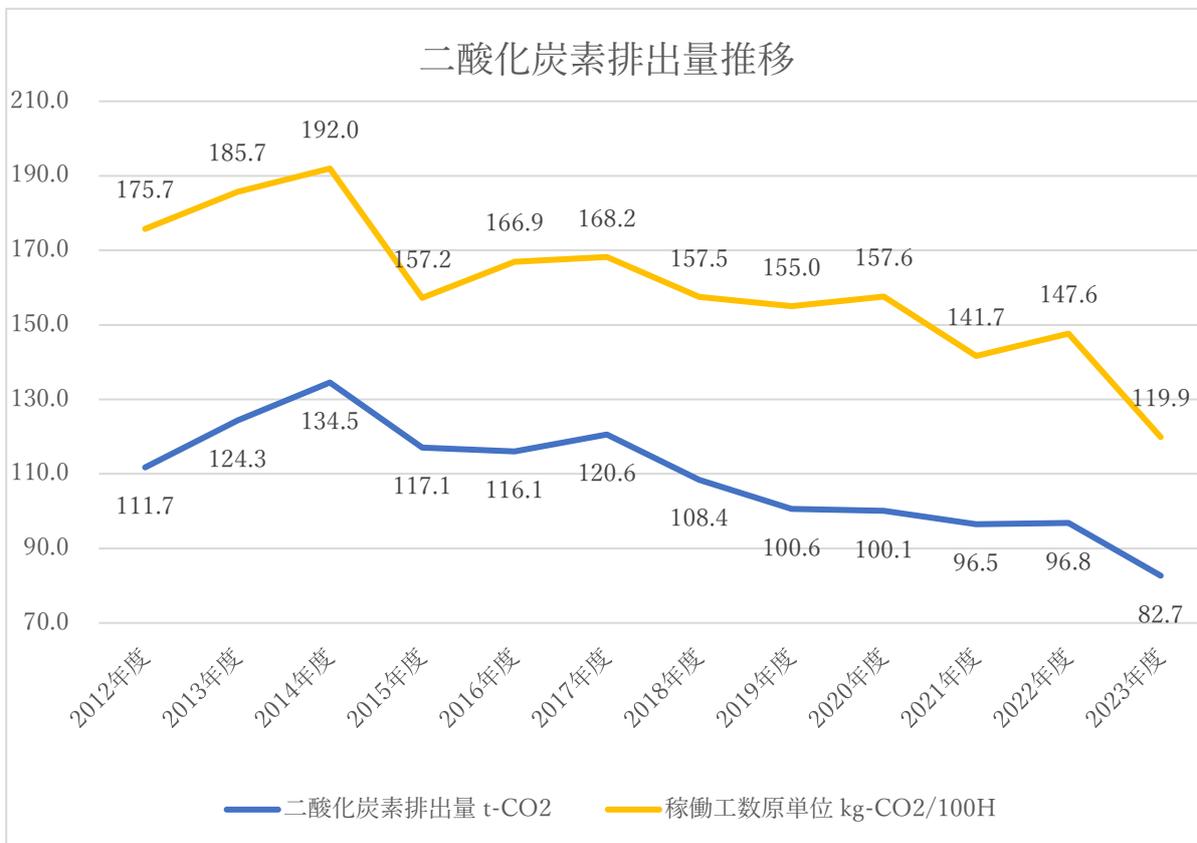
LPGの使用量は24Kg2017度の59Kgに対し41.2%。工数原単位43%であった。社長指示による湯沸かしの電気ポットへの切替効果による。(火災リスク低減のため電力エネルギーへ変更)生活用途に限られるため今後も大きな変動はないものと思われるため目標も引き続き「50%削減」としている。

軽油の使用量は1,682㍓、で基準値の昨年度比96.4%工数原単位92%、ガソリンの使用量は831㍓基準値の昨年度比99.8%工数原単位で95%。で共に目標達成。

二酸化炭素排出量は電力消費量削減に伴い減少し、83t-CO2であった。2017年度比68.6%工数原単位76%となり目標達成。受注状況、気温の変動による影響を受けているが、引き続き削減に向けての努力を実施する。

二酸化炭素排出量の推移は以下の通り

電力の CO2 排出量排出係数は 2017 年度東京電力エナジーパートナーの値 0.462 CO2-kg/kWh を使用しての比較



産業廃棄物は、廃プラが29.5m3 昨年度とほぼ同じ。98.3%で目標未達成、工数原単位では94%であった。顧客との梱包容器、梱包用パッキンのリユースの状況では、梱包容器は順調に循環しているが、梱包用パッキンの戻りが少なくなっている。顧客に確認したところ、そのまま「顧客からの出荷」に使用している分が減少しているとのこと。使用先が変わっただけなので問題視はしていない。

可燃ごみは630Kg 昨年より100Kg 増加、工数原単位113%で目標未達成。新型コロナウイルス対策として導入したペーパータオルは衛生上の観点から当面の間引き続き実施。

上水使用量は305m3、ほぼ昨年並み。工数原単位で基準の2017年度比67%となり目標達成。生活用途に限られるためこの先大幅な削減は無いと思われる。

7-2 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

2024年度は昨年度と同じ目標とする。受注量減による機器稼働停止は電力消費量に大きな影響を与え、省エネ化しCO2削減にはプラスとして働くものの、経営的には望ましい物ではない。受注量増加時にCO2を削減できるように努力を続けていく。

7-3 2024年度の目標及び中期目標

No.	項目	中長期目標(2027年度)	2024年度目標	担当部門	
1	エネルギー使用量の削減	電力使用量の削減	2027年度 2017年度比10%削減	2017年度比10%削減	製造 G r
		LPG使用量の削減	2027年度 2017年度比50%削減	2017年度比50%削減	管理 G r
	車両燃料使用量の削減	2027年度 2022年度比110%以下	ガソリン2022年度比110%以下 軽油2022年度比110%以下	管理 G r	
2	二酸化炭素排出量の削減	2027年度 2017年度比10%削減	2017年度値比10%削減	品質保証 G r	
3	廃棄物排出量の削減	2027年度	2022年度値比3%削減(7°)	製造 G r	
		2022年度比3%削減	リサイクルの調査継続	環境管理	
			2022年度比110%以下(可燃)	責任者	
4	水使用量の削減	2027年度	2017年度値比20%削減	管理 G r	
		2017年度値比20%削減			
5	化学物質使用量の適正量管理	適正使用量の管理	適正使用量の管理	管理 G r	
6	環境に配慮した製品の提供	鉛(半田)の適正使用量の管理	鉛(半田)の適正使用量の管理	製造 G r	
7	紙使用量の削減	2027年度	2022年度比3%削減	品質保証 G r	
		2022年度比3%削減			
8	グリーン購入率の向上	グリーン購入可能品への切替	グリーン購入可能品への切替	管理 G r	
※数値目標は稼働工数原単位とする。					
※電力のCO2排出係数は0.462 kg-CO2/kWhで計算					

8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無 次年度の取り巻く環境の変化

法規遵守状況

○廃棄物処理法	遵守
○東京都環境確保条例	遵守
○八王子市下水道条例	遵守
○騒音規制法	遵守
○東京都環境確保条例	遵守
○振動規制法	遵守
○東京都環境確保条例	遵守
○悪臭防止法	遵守
○東京都環境確保条例	遵守
○特定化学物質の環境への 排出量の把握等及び管理 の改善の促進に関する法 律（化管法）	遵守
○東京都環境確保条例	遵守
○消防法	遵守
○東京都環境確保条例	遵守
○フロン排出抑制法	遵守

法規制違反の指摘及び訴訟の請求は過去3年以上ありません。

また、地域住民等からの苦情は過去3年以上ありません。

外部環境の変化

取引先の親会社や、別の取引先の経営環境に変化はあるが、当社への具体的な影響は現時点では不明。

9. 代表者による全体の評価と見直し

環境経営方針変更の必要性

無し。このまま継続する。

目標・活動計画変更の必要性

無し。このまま継続する。

実施体制変更の必要性

無し。このまま継続する。

その他

社有車の更新時には、EV車も検討する。

総括

日々の活動は、確実に成果に結びついている。しかし、ここまでやれば充分と言った正解はないので、全社員の環境への意識レベルをもう一段高め、出来ることを知恵を出し、汗をかき、やっていこうと思う。我々は間違った方向には行っていないので、更なる深掘りをして、確実に目標を達成しよう。また、電子帳簿保存法等の法改正は、ただ面倒になっただけと捉えず、電子化することで自分たちで刈り取れるメリットを見つけて行こう。

代表者の指示事項

温暖化の影響は、人類共通の課題であり、全社員共通のテーマでもある。設備の更新や日々の努力は確実に成果に結びついている。エネルギー価格の上昇は、今後も経営課題として重要なアイテムであり、今までの慣習や習慣を見直し、聖域を設けずに活動すること。現在の技術では、主業のはんだ付けにどうしても電力が必要である。しかし、節約出来ることも必ずあり、しっかりと刈り取って行こう。